

派遣先所属 宮城県仙台地方振興事務所 氏名 佐藤 大輔 (さとう だいすけ)
派遣期間 平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の宮城県仙台地方振興事務所では主に東日本大震災で被災した農地や農業用施設の復旧に関する業務をおこなっています。今回の震災では津波により用水路やポンプ場といった施設が破壊されたほか、農地自体も海水による塩害やガレキの混入により営農が困難となっているため、これらを復旧し被災地の方々に一日も早く営農を再開してもらうための業務です。工事の費用を積算して発注し、その工事が落札された後には監督員として施工管理をおこないます。

仙台地方振興事務所の管内では約 7,440ha の農地と 20 箇所の排水機場が被災しましたが、平成 25 年の作付けまでに 4,700ha、排水機場も 7 月までに排水能力の約 9 割を復旧しました。



農地の復旧事業は本年度で 3 年目ですが過去 2 年間内陸側から順次工事を実施してきたため、今年是最も海寄りの農地を施工しています。海に近い農地は津波の被害を最も受けているために現在でも荒野のように荒れている農地も多く、復旧が完了した農地と隣接する箇所では、その対比により津波の威力とまた前年度以前に復旧に携わってきた宮城県職員や派遣職員の苦労が感じられる光景が見られます。



また、農地を復旧するうえでは関係機関との協議は欠かせません。市、改良区、地元でつくる復興組合と2週間に一度打合せを実施し、工事の進捗状況や問題点、協議事項などを話し合いながら工事を進めます。特に復興組合の方々は地元の耕作者の方が多くいるので、被災前の状況や地域の特徴など現場を見ただけは分からない情報を教えてもらったり、農地から石礫や雑草などを撤去する作業に従事してもらったりと、多くの面でご協力を頂いています。これらを繰り返しながら迅速な農地の復旧を進めています。



2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

宮城県の沿岸部を車で走っていると多くの復旧工事のダンプトラックとすれ違います。私が派遣されている宮城県の工事のほかにも国や民間工事の車両など様々です。ナンバーを見ると北海道から沖縄まで多種多様です。また、仙台地方復興事務所には日本全国から派遣職員が集まって業務に従事しています。

このような日本中の力を結集して復旧復興をおこなっている現場に埼玉県の職員の代表としていただけることは非常にうれしく、また有り難いことだと感じています。

これからも、宮城県の復旧・復興が進むよう最大限の努力をしていきたいと思っています。